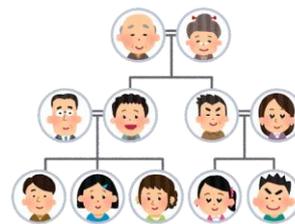


苗字（名字）の由来を調べる

参考図書 (reference book) とは

特定の知識や情報について調べることができるものを参考図書とよんでいます。小説などとは違い、必要なところだけ読めば用が足りる、たとえば、事典・辞典・図鑑・年鑑・便覧・白書などです。



苗字（名字）の歴史

古代に氏があり、これが、のちに名字として使われる場合がありました。中世には【名字】を用い、多くは土地と結びついて発生しました。近世には【苗字】を用い、土地との密着性は少なく、祖先の氏、素性などを意味する言葉に転化しています。江戸後期には、私的に苗字を持つものも増えました。明治8年(1875)、「平民苗字必称義務令」により国民全員に苗字を称することが義務付けられました。

苗字の数が、日本で十数万にも増えたのは、苗字の作り方に制限がなかったために、漢字の組み合わせなど自由にできたからです。苗字はまさに、それを背負う人と共に生きた文化財なのです。

(『日本姓氏大辞典』解説編参照)

『姓氏家系大辞典』

太田亮著 角川書店 1972年 全3巻

当初、1920年に『姓氏家系辞書』として刊行されたものが、大幅に増補を加えて、『姓氏家系大辞典』として1934-36年に初版が刊行されました。その後、再発行および復刻を繰り返していますが、ほとんど内容に変更はありません。

姓を調べるにあたって、まずは手に取る書のひとつです。全国の姓氏を歴史的仮名遣いの五十音順に収録し、起源、分布、本家と別家の関係などを解説してあります。

『日本名字家系大事典』

森岡浩編 東京堂出版 2002年

収録名字数は約6,000です。平安末期以降に実際に存在した名字に限定して収録しています。巻末に「都道府県別ベスト30姓」を収録しています。

『姓氏4000歴史伝説事典』

志村有弘編 勉誠出版 2008年

収録姓氏数は約4,000です。起源、系譜、分布、家紋のほか、歴史や著名人についての記述があります。現代仮名遣いを用い、五十音順に排列しています。

『日本姓氏大辞典』

丹羽基二、日本ユニバック著 角川書店 1985年

表音編・表記編・解説編があります。日本の姓氏13万項目を収録し、そのルーツを分類しています。

『姓氏家系大辞典』で調べてみました！

問① 芥川賞の芥川の姓について、その姓の起こりは？

答 芥川は、「摂津嶋上郡芥川村（現在の高槻市芥川町）より起る」と述べられています。後に、いくつかに分かれたようで、桓武平氏流、清和源氏小笠原三好氏流、芸備の芥川氏、羽後の芥川氏などがあります。
（第1巻【芥川 アクタガワ】の項）

問② 真田幸村などの真田姓の先祖の出身地はどこ？

答 真田は、「相模、信濃等に此の地名存す」とあります。そのうち、幸村の真田姓の場合は、「滋野姓海野氏流 信濃国小県郡の真田（今長村）より起り」と述べられています。このことから、代々幸村の祖先は信濃にあったことがわかります。

真田荘の住人として、真田姓を名乗る前は海野姓であったなど、諸説があります。

（第2巻【真田 サナダ】の項）

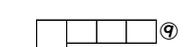
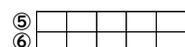
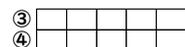
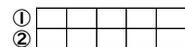
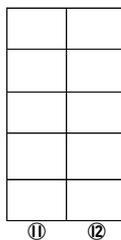
調べてみよう！

- * 自分の姓について調べてみよう。
- * 2024年発行の新1万円札に描かれる渋沢栄一の【渋沢】姓の由来は？
- * 兵庫県ゆかりの武将・黒田官兵衛の【黒田】姓の根幹地ってどこ？

まずは、紹介されている参考図書を調べてみましょう！

参考図書はこちら→

中央図書館3階



図書館の本は、本の背に内容がわかるよう分類ラベルが貼ってあります。

人名関係の本は【280】～【288】を探してみてください。



カウンター

わからないことがあれば、何でもお気軽に図書館員におたずねください。